

今福線研究分科会 2年目の活動

木村 賢一

1. はじめに

今福線研究分科会は、今福線遺構マップ作成を新たな目標に掲げました。今福線遺構マップ作成に向けた今福線研究分科会の2年目は、現地情報収集を目的とする昨年度未調査区間の現地調査および、地元の皆さんとの交流を行いました。以下に今年度の活動について詳述します。

2. 平成23年度打ち合わせ会

昨年度の活動成果および、今年度の活動目標についての確認を目的とする平成23年度初回打ち合わせを行いました。

(1)日時：平成23年7月30日

(2)場所：株式会社コスモ建設コンサルタント本社

(3)昨年度の成果

- ①遺構を調査し、場所および、状態を把握しました。
- ②川の音が反響する眼鏡橋を「おろち泣き橋」と命名しました。
- ③佐野町公民館だよりに「おろち泣き橋」が掲載され、佐野町老人会(寿会)により碑が建立されました。

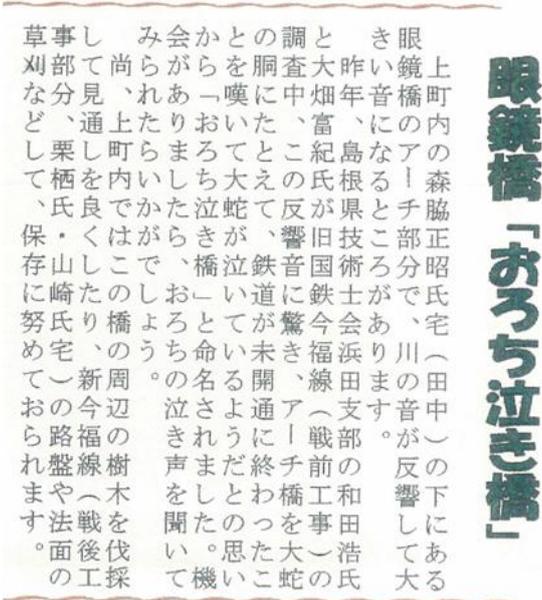


図.1 佐野町公民館だより



写真.1 「おろち泣き橋」碑

(4)今年度の活動目標

- ①現地調査の実施(昨年度未調査区間)
- ②地元との交流
- ③情報収集
- ④今福線遺構マップの作成(最終目標)

3. 予備調査

現地状況に詳しい佐野町老人会の石本恒夫会長に同行をお願いし、終日雨の中、本調査のルート確保(伐採)を目的とする予備調査を行いました。

- (1) 日時：平成 23 年 11 月 5 日(終日雨)
- (2) 場所：新線と旧線の分岐点～旧線今福第六トンネル(L=約 600m)
- (3) 予備調査状況



写真.1 カマとナタを持ち藪へ



写真.2 現在地確認中

4. 本調査

今福線遺構マップの作成に必要な現地情報収集を目的とする本調査を行いました。

- (1) 日時：平成 23 年 11 月 19～20 日
- (2) 場所：新線と旧線の分岐点～旧線今福第六トンネル(11月19日)
佐野町～旧線の起点となる下府駅へと北上(11月20日)

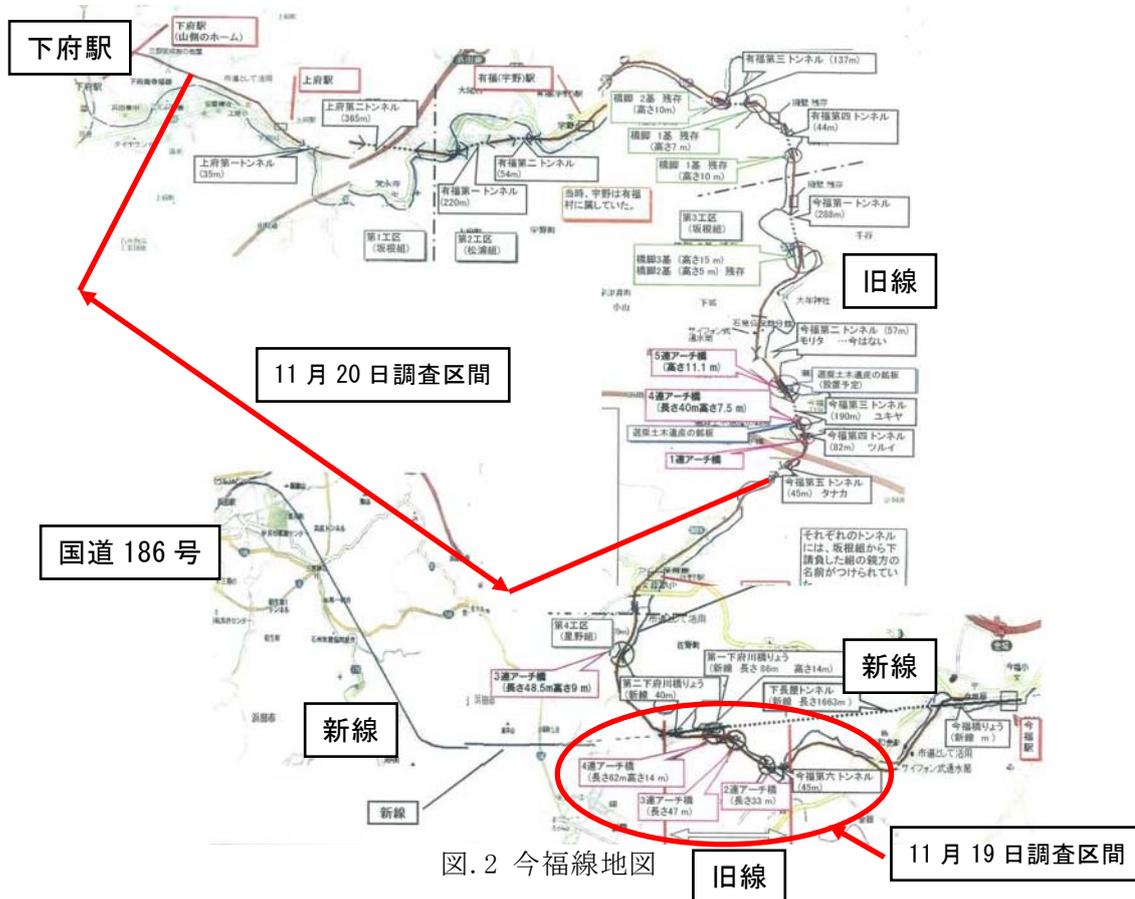


図.2 今福線地図

(3) 本調査状況

①平成 23 年 11 月 19 日 (小雨)

本調査 1 日目は、昨年度未調査区間である新線と旧線の分岐点～旧線今福第六トンネルまでの約 600m 区間の現地調査を行いました。予備調査と比べ、小降りでしたが天候に恵まれない中での本調査となりました。

当該区間は 4 連アーチ橋が 3 橋 (L=62m、47m、33m)、今福第六トンネル (L=45m) が位置します。これら構造物の壮

大さに感嘆するとともに、70 年以上が経過する土工区間に目立った被災箇所がないことに驚きました。

アーチ橋下の美しい溪流など自然豊かな風景は魅力があり、予備・本調査ともに天候に恵まれなかったことが残念でした。

②平成 23 年 11 月 20 日

本調査 2 日目は、昨年度調査済み区間である佐野町～旧線の起点となる下府駅へと北上し、構造物を再確認しました。

今年度から参加した私にとって、鉄道遺構は新鮮であり、その数の多さに圧倒されました。



写真. 3 新線と旧線の分岐点



写真. 4 新線と旧線



写真. 5 アーチ橋下の溪流



写真. 6 今福第六トンネル



写真. 7 アーチ橋と土木遺産認定看板



写真. 8 5連アーチ橋



写真. 9 旧線橋脚とトンネル



写真. 10 旧線橋脚

5. 地元交流会

「今福線を語る会」と命名し、地元の皆さんと交流会を行いました。地元の皆さんおよび、島根県技術士会それぞれの活動内容や課題、今後の今福線認知度向上等について語り合いました。2 時間あまりの交流会では、小村ソバリエからは美味しい蕎麦、地元からは天ぷら、おはぎ、漬け物を振る舞っていただき、楽しい交流会となりました。

(1) 日時：平成 23 年 11 月 19 日

(2) 場所：美田会館

(3) 出席者：自治会長・佐野町老人会(寿会)等の 7 名、今福線研究分科会の 6 名 計 13 名

(4) 地元等の活動内容

①草刈り(年 2 回)

②おろち泣き橋の碑を建立

③桜を 10 数本植樹

④自治体主催による新線トンネルの通行会を 3 年連続開催

(5) 地元の課題

①京阪神等から訪れる人も多く、史跡として残したい。

②景色が良く、見所も多いが手入れが行き届かない。

③遊歩道としたいが、転落防止柵が必要など安全面に問題がある。

④今福線への認知度・興味が不足している地元の人(特に若い人)がいる。

(6) 島根県技術士会への要望

①今福線遺構マップを作成してほしい。

②地元から遊歩道の要望を出しているが自治体の動きが鈍い。外部からの働きかけはできないか。

③足元が悪いため、張コンクリートを設置してほしい。



写真. 11 地元交流会



写真. 12 ごちそう

6. おわりに

浜田市に暮らしているながら「今福線コンクリートアーチ橋群」の選奨土木遺産認定(土木学会)や地元の皆さんの多くの活動に対する認識不足は、恥ずべきことであったと感じています。今年度の活動で改めて存在を知り、体験することで今福線遺構の魅力を実感することができました。特に、川の音が反響して橋梁内を大量の水が流れてくるように聞こえる「おろち泣き橋」での不思議な体験は、現地でないと感じることはできません。多くの人に体験してほしいと思いました。

鉄道遺構が多く、風景もすばらしい今福線は地域活性化の可能性を秘めながら、その魅力を十分に発揮していません。最大の議題は認知度の向上であると考えます。

観光資源としての利用にあたっては、安全面の向上、維持管理など多くの課題がありますが、まずは認知度向上に寄与すべく、今福線遺構マップ作成を目指し活動したいと考えます。